

**母子家庭・父子家庭の皆さんに
「はり・灸無料治療券」を進呈**

社団法人静岡県鍼灸師会より、子育て、家事、仕事と生活の全般にわたり、ひとり親で担われている母子家庭や父子家庭のお母さん、お父さんを対象に「はり・灸無料治療券」をいただきました。無料治療券は、県内約150箇所の施術所（治療院）で利用できます。

有効期限／3月19日（火）（1人1回に限る）
その他／ご利用の人は、本人確認のできるものを持って、福祉課へお越しください。（無料治療券が無くなり次第、配布は終了します）

問合せ／福祉課（979-8133）

**湯～トピアかなみ
冬の湯遊キャンペーン**

内容／○レストラン・整体ご利用の人（グループ全員）入館料の延長が1時間無料。（通常3時間）○2階個室が1時間単位（1時間1,000円）で利用可。○レストランで期間限定メニューをお手ごろ価格でご用意。

期限／3月31日（日）

その他／湯～トピアかなみ入館割引券は、1月16日（水）～3月30日（土）までが有効期間です。期間中は大人300円、子ども100円で効能豊かな天然温泉をご利用できます。皆さんそろってのご来館をお待ちしています。※「入館割引券」は、日曜・祝日はご利用になれません。

問合せ／湯～トピアかなみ（970-0001）

相談 認知症出張相談会

NTT東日本伊豆病院は、「認知症疾患医療センター」として、県から指定を受けています。認知症の人とその家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるための支援の一環として、専門の相談員による認知症に関する相談会を無料で行います。

日時／2月16日（土）9時～12時

場所／三島商工会議所 会議室（三島市一番町2-29）

申込み／2月14日（木）までにNTT東日本伊豆病院総合相談室（978-2558）へお申し込みください。

2月23日は富士山の日です

静岡県では、日本のシンボルである富士山を世界に誇る山として、後世に継承するための「富士山憲章」を平成10年に山梨県と共同で制定しました。また、富士山について考え、学び、想いを寄せ、後世に引き継いでいくための日として「富士山の日」を条例で決めました。皆さんも、自然が創り出した大切な世界遺産である富士山について考えてみませんか。

問合せ／富士山総合案内（054-221-3776）

**麻しん・風しん（MR）
混合ワクチン予防接種**

年長児、中学1年生、高校3年生相当の年齢の人が対象者、接種料金無料です。

対象／①2期（年長児相当：平成18年4月2日～平成19年4月1日生まれ）②3期（中学1年生相当：平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれ）③4期（高校3年生相当：平成6年4月2日～平成7年4月1日生まれ）

接種期限／3月30日（土）

接種方法／委託契約医療機関（函南町、伊豆の国市、伊豆市）での個別接種（※要予約）

委託契約医療機関以外で接種をする場合は、医療機関あての予防接種依頼書が必要です。1週間程度の余裕をもって健康づくり課へご連絡ください。

持ち物／予診票・母子手帳・健康保険証

※母子手帳がないと接種できません。

その他／対象時期を外れると自費接種となります。

問合せ／健康づくり課（978-7100）

募集 訪問介護計画作成・展開研修講座

日時／2月13日（水）、2月22日（金）9時30分～16時30分

場所／三島市民文化会館3階（三島市一番町20-5）

内容／訪問介護計画作成・展開の原則の講義、事例演習

対象／サービス提供責任者の選任要件を満たす現任の訪問介護員

受講料／無料

募集人数／40人（先着順、2日間受講可能な人）

申込み／2月1日（金）までに静岡ライフカレッジ（973-0522）へお申し込みください。

団体・活動紹介

函南町文化協会

ひまわりの会

宮本 美保

私たちは、平成24年4月に文化協会に仲間入りさせていただきました。

生活の中で自然美の結晶ともいえるお花を楽しみ、いける人、見る人、どなたもが癒され幸せを感じることを願って活動しています。

お花をいけたときの全体の花姿を、私たちは「光輪花」（こけりんか）と呼んでいます。

文字どおり、光のような明るさや暖かさに満ちた花を目標にしている、自然美の結晶ともいえる花の美しさ、自然のもつ清々しいエネルギーを感じながら、知らず知らずのうちに、心豊かで健康な1人1人、家庭、地域社会を目指そうとするものです。

主な活動は、大人向けの教室として「光輪花クラブ」、

子ども向けの「子ども山月」（さんげつ）、また、公共施設などへのお花のいけこみや小学校などでお花のクラブを行っています。

その他に町の文化祭に出席したり、役場で「ミニ花展」を開催したりしています。また平成24年には、かなみ仏の里美術館で「和」をテーマとした花展も行いました。

「花のある生活」に興味ある人は、いつでもお声をかけてください。



▲かなみ仏の里美術館 展示

問合せ／宮本 美保（979-4470）

文芸散歩

「天蚕」

谷 和子

熱函道路から十国峠に向かう道の分岐近くに天蚕というバス停があったことを覚えている。天蚕とは、山繭のことである。

ヤマムユガ科の幼虫が、クヌギ・ナラなどの葉を食い、黄緑色の楕円形の繭を作る。日本の各地の山地に分布していたという。

今は、幻の繭だ。

わたしは、この黄緑色の反物をインドの絹織物店で見つけたのである。日本へ輸出する着用反物で、それは美しい光沢であった。

その昔、アジアで生産され、ヨーロッパに渡り、宮庭文化の華いだ人々の衣装となった絹織物である。

ロシアの旅では、皇帝の妃エカテリーナの華いだドレスがクレムリンの武器庫展示場に飾られていた。ガイドは「天蚕糸で織られた物だ」と言った。

美しいドレスだった。

現代の繭は、染色し易い白いものが主流だが、何いろにも染まらないという天蚕糸、この函南の地でも生産されていたのではないだろうか。今は、バス停もなく、シルクロードに繋がる道は見えないけれど、天蚕糸のロマンを結んでみたいと思うのだ。

（函南文芸の会）